

進路に悩むあなたに伝えたいこと

沖縄の青い空と青い海のエネルギーを満身に浴び
生き活きと学ぶあなたの想像、
社会基盤デザイン工学者、
そして土木技術者としての未来像の発見

社会基盤デザイン工学あるいは土木工学は、文明を支える学問として発展してきました。人は水を求めて移動し、食を求めてさまよう中から、定住という生き方をもって社会を形成、文明を築いてきています。

人が定住を可能ならしめたのは、それを成し得る術を発明し、それに工夫を凝らし、それらを継承してきたことにあります。そのような人類の歴史において、土木技術者は、聖者としての役目を担ってきたと言えます。

日本国の天皇家には天皇継承の証として三種の神器が存在します。

それらは、剣であり、鏡であり、勾玉となっています。天皇継承の証としての三種の神器になぞらえて、聖者としての土木技術者の立つ位置を説明するのならば、(剣) 荒れ狂う自然を沈め、(鏡) 災害を予測し、(勾玉) 安住をなら占める術を持つ者、すなわち三種の神器を身にまとった聖者として説明することができます。

かつて獣道を歩いた人類は、今日数千キロにもおよぶ整備された道を走り、島々にまでも至り、打ち上げた人工の星の指図にしたがって自動運転の車に乗って走る時代となっています。高度経済成長の証としての近代的沿岸道路、長大な橋梁、巨大ダム、世界を結ぶ拠点としての空港や港湾の建設、荒れ狂う河川の整備でかなう街や都市の形成、自然環境の保全、持続可能な観光を支える社会基盤の創造、人類の叡智の結晶としての技と建設をもって、今日の高度文明が支えられています。それらは全て、聖者としての社会基盤デザイン工学者、そして土木技術者によるものです。

日本国は、あるいは世界の多くの国は、今日にあっても深刻な自然災害を被っています。最近の地球規模の気候変動は、ますます自然災害の頻度を高め、その勢いを増していくと推測されています。これに対応する土木工学が求められています。一方で、宇宙での滞在など宇宙未来都市へ貢献する宇宙土木工学も求められています。叡智をもって技術を発明し、それを継承発展させて来た人類は、地球規模の問題解明や宇宙社会構築に当たる三種の神器をまとった聖者を求めており、皆さんの未来像にその姿を見ているのです。

自然を学び、自然を予測し、文明を支える科学と技術を学ぶ学問が、大学においては、社会基盤デザイン工学や土木工学と呼ばれています。科学と技術という

剣と鏡とをもって、自然現象を理解、予測し、自然との共生をもって発展する文明を支えるために、今日学ぶ物理や数学がそれらの基盤としてあります。

さて、あなたが三種の神器を身にまとった聖者として社会基盤デザイン技術者や土木技術者になったとの想定で、自然現象や社会基盤の中に解決すべき問題を見出し、それに数学と物理の応用を考えてください。ささやかな不思議と発想が、文明を支える科学や技術に発見をもたらします。

沖縄の青い空と青い海から湧くエネルギーを満身に浴びて、生き活きと学ぶあなたを想像し、あなたの未来像を、この社会基盤デザインコースで発見してください。